

## 「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立根木名小学校】

令和7年4月に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

### 1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

#### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

\*出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

#### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

### 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

- (1) 教科の正答率について (\* 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B
理 科	学習指導要領の目標及び内容に基づき、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの科学の基本的な概念等を柱とした内容をバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

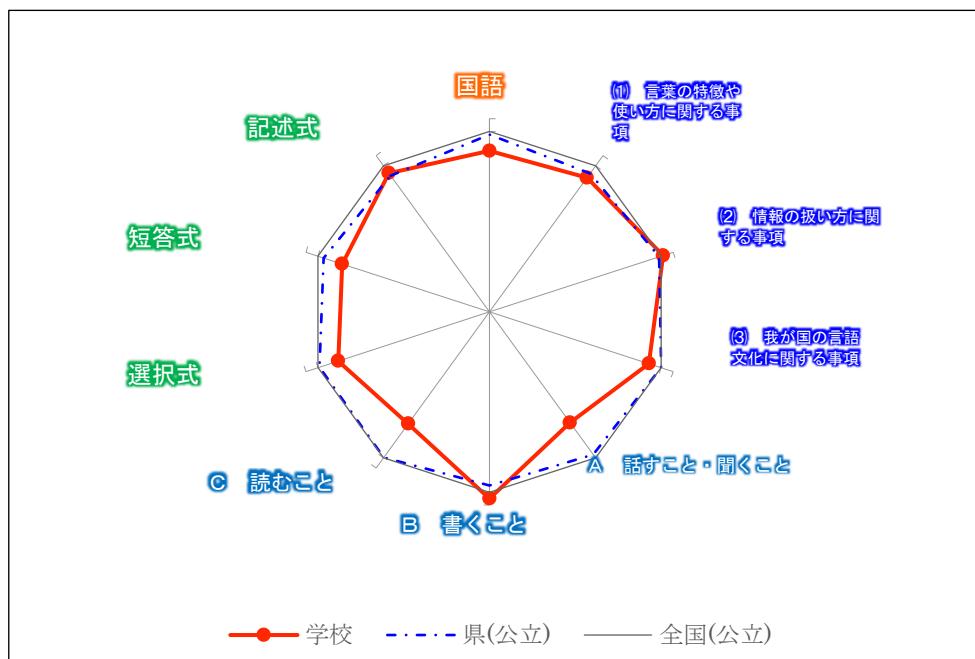
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



### 【特徴と現状】

本校の国語の平均正答率は 62.0%で、全国平均を下回っています。全体として「書くこと」では全国平均を上回っており、文の構成や語句の使い方などに一定の成果が見られます。一方で、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」では全国との差が大きく、文章の要旨を把握したり、相手意識をもった言語活動を行ったりする力に課題があります。また、問題別にみると、会話の意図を捉える問題や複数の資料をもとに考えをまとめる問題で誤答が多く、文章構造や情報の関係を読み取る力が十分でないことがわかります。

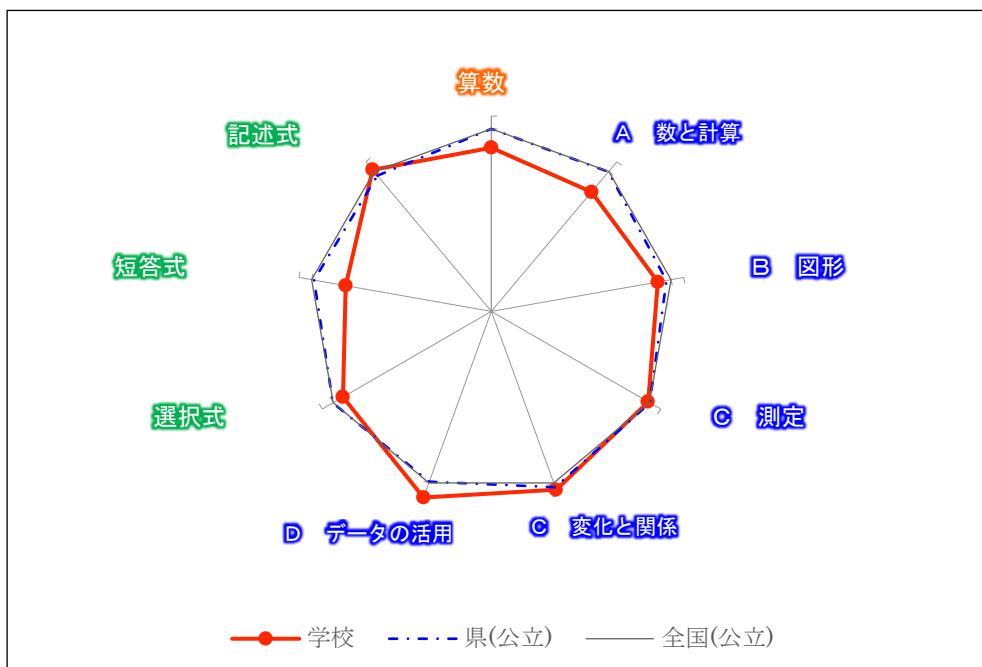
これらの結果には、日常的な音読活動や読書活動の時間、発表や話し合い活動の機会が十分でないことが影響していると考えられます。今後は、読解力の基礎を育むための取り組みや、対話的に考えを共有する学習の充実を課題として授業改善していきます。

### 【改善方策等】

文章や会話の意図を正確に読み取り、根拠をもとに自分の考えをまとめて表現する力の向上、「読むこと」における思考力・判断力・表現力の向上を図る必要があります。これらの改善目標を達成するために、次のような改善策に取り組んでいきます。

- ・授業内で文章や資料を比較しながら要旨を整理する学習を取り入れる。
- ・国語科の「意見交流会（意見のちがいを話し合う活動）」「インタビュー活動」「ディスカッション活動」などを通じて、発言意図を捉えたり、意見を根拠に基づいて伝え合ったりする機会を増やす。
- ・単元のまとめで「根拠をもとに考えを書く」課題を設定し、書く力と読む力の統合を促す。

## 算 数



### 【特徴と現状】

本校の算数全体の正答率は 54.0% で全国平均を下回り、特に記述式問題で全国との差がみられました。基礎的計算力は概ね全国平均並みである一方、数量理解や資料活用、分数表現を伴う文章題の正答率の低いことが課題です。問題別では、「10%増量のハンドソープの量」「ピーマン・ブロックの重さ計算」「出荷量の増減判断」「数直線上の分数表現」など、数量関係の理解や情報の読み取りを要する設問で誤答が多く、日常生活に関連した数量や比率の概念理解が不十分なことが要因と考えられます。

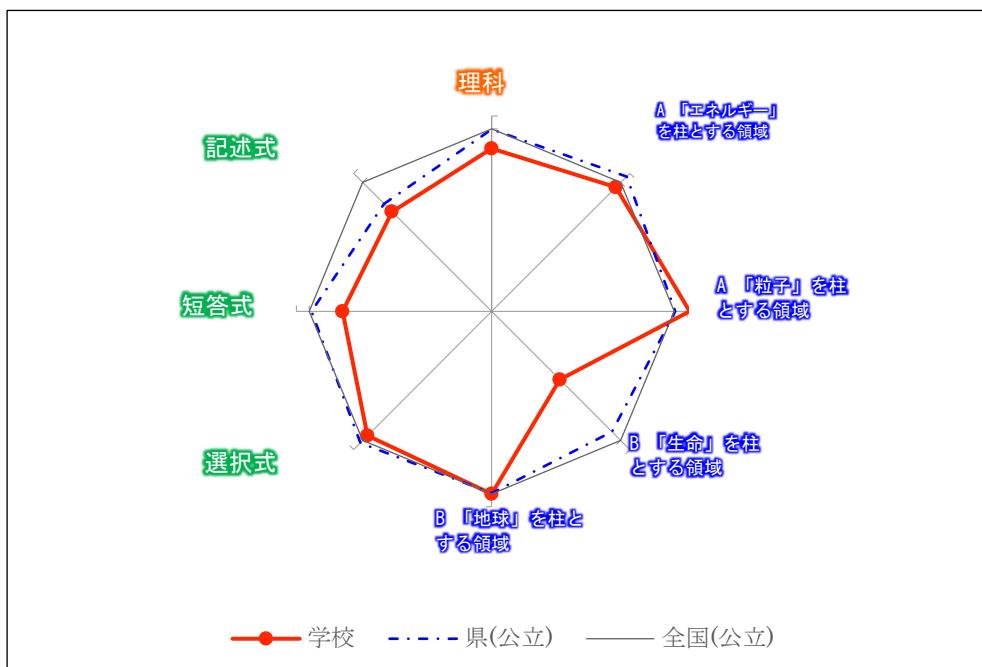
これらの結果から、文章題や資料活用型問題で必要な数量関係を正しく読み取り、式や言葉で表現する力を確実に育成することが全体の課題となっています。また、分数・比率などの概念を日常生活の場面と結び付け、応用力を伸ばしていく必要があります。

### 【改善方策等】

文章題や資料活用型問題で、数量関係を正しく読み取り、式や言葉で表現できる力を身に付けていくように指導の改善を図っていきます。また、分数や比率の概念を日常生活と結び付け、応用力を伸ばしていく学習が必要です。これらの改善目標を達成させるために、以下のような改善策を取り組んでいきます。

- ・文章題や資料活用問題の演習に取り組み、数量関係の読み取りや式の表現方法について指導を行う。
- ・分数・比率の概念を日常生活の題材（買い物、料理、測定など）で具体的に体験させる学習活動を取り入れる。
- ・記述式問題の書き方指導として、解答例の整理や式・文章の書き方のモデルを教師が提示し、児童の書き方の手本となるようにする。

## 理 科



### 【特徴と現状】

本校の理科では、全体の正答率が 53.0%で全国平均を下回っており、「生命」の領域や電磁気・物質の性質に関する問題で正答率が低い傾向にあります。誤答の多かった設問を見ると、観察・実験結果を基に科学的に考察し、知識や技能を応用して表現する問題で正答率が低くなっています。これらは、物質の性質や電気回路の理解、実験結果からの考察・表現力が十分に定着していないことが要因と考えられます。

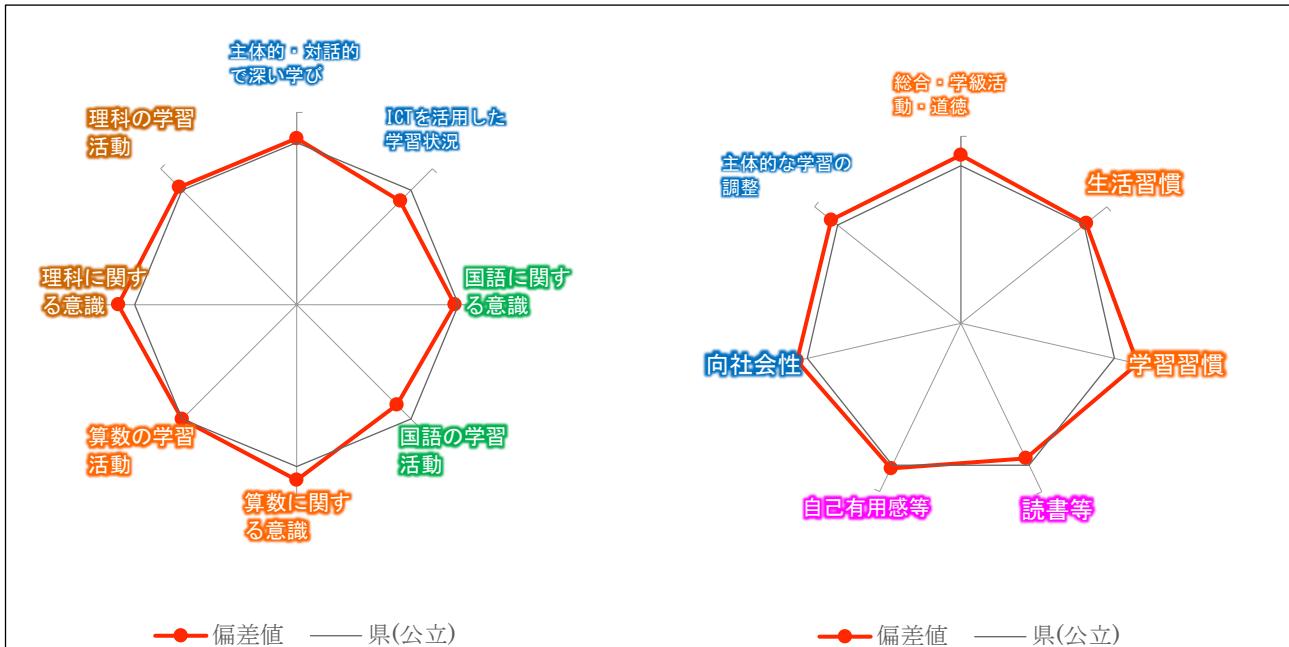
のことから、理科の学習では、日常生活や身近な現象を通して物質や電気・磁力の性質を理解させるとともに、観察・実験の条件設定や結果整理、考察の文章化を繰り返し指導することが全体の課題です。特に記述式問題では、自分の考えを科学的根拠に基づき文章で表現する力を育てることが必要です。

### 【改善方策等】

観察・実験を通して、科学的概念の理解を深め、結果の整理・読み取り・考察を文章で正確に表現できる力を育成します。また、物質の性質や電気・磁力、生命現象などの基礎知識を日常生活の事例と関連付けて応用力を高めることを目指します。これらの改善目標を達成させるために、以下のような改善策に取り組んでいきます。

- ・実験・観察の手順や条件設定の方法を丁寧に確認させ、児童自身が実験計画を立てるようする。
- ・観察結果やデータを整理する活動（表やグラフへの記入、比較・考察）を多く取り入れる。
- ・結果から原因や規則性を文章で説明する練習を反復する。
- ・物質・電気・磁力・生命現象の基礎知識を、日常生活の具体例（家庭・学校・自然環境）と結び付けて学習する。

### (3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

本校の質問紙調査の結果を全国平均と比較すると、学習習慣や算数・理科に関する意識は全国平均を上回っており、学びに向かう姿勢が一定程度育っているといえます。一方、ICTを活用した学習や国語の学習活動、読書などは全国平均を下回っており、取り組みの定着や学習の深まりに課題が見られます。

全体の特徴として、児童の科目に対する関心は比較的高いものの、学習活動や学習環境の活用には差がありました。質問別にみると、国語の学習活動やICTを活用した学習で課題が顕著で、授業中の取り組みや家庭での活用にばらつきが見られました。

児童一人ひとりが自分の学習状況を把握して計画的に学習を進める力を伸ばすことや、ICTや読書など多様な学習手段を安定して活用することが全体の課題です。

## 3 まとめ

全国学力・学習状況調査の結果から、児童は基礎的な知識や計算力などの基本的な学力は一定程度身に付いており、算数や理科に対する関心や学習意欲も比較的高いことが成果として挙げられます。

一方で課題としては、文章題や資料活用型問題で数量関係や情報を正しく読み取る力、分数や比率の概念理解が十分でないこと、理科では実験の条件設定や結果の考察、電気・発芽などの概念理解に課題が見られます。さらに、国語では文章の構成や登場人物の気持ちの理解を自分の言葉でまとめる力が十分でなく、ICT活用や読書も定着していないことが課題です。

これらの結果から、各教科での基礎力の定着に加え、文章理解や情報活用、実験考察の力を育て、児童が主体的に学習を進められるように支援することが今後の重点となります。